

第3章 室蘭～苫小牧

第1節 5日目：6月15日（日）：室蘭～登別 曇り

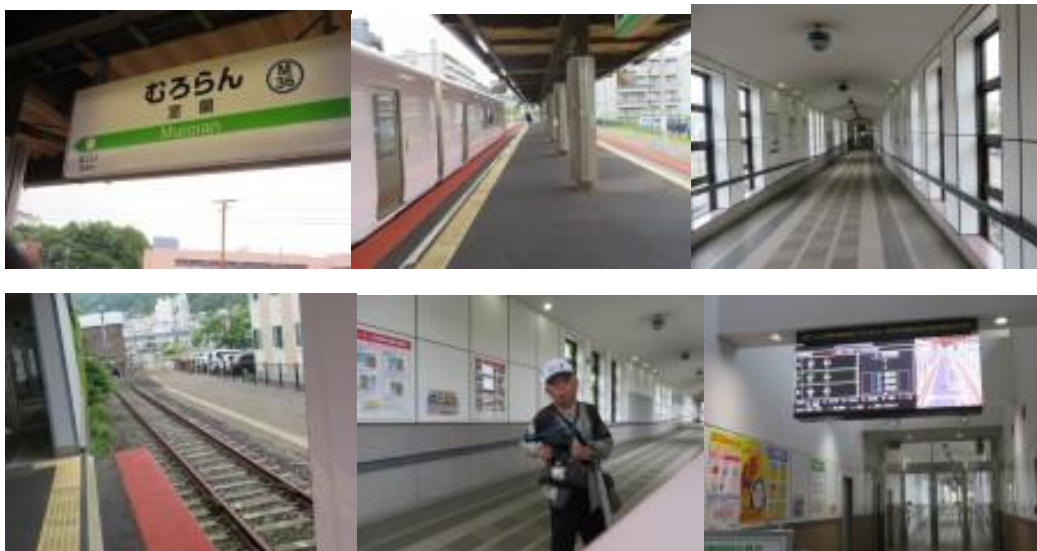
2025年6月15日（日）曇り、室蘭本線の旅の5日目は、室蘭から登別までの営業キロ24.5kmに挑戦する。本日も苫小牧6時10分発の始発のため、ホテルで朝食は取らずに臨む。昨夜買ったおにぎりで代用する。



※電化した車両で室蘭駅へ



※一番乗りのため誰もいない車両



※室蘭駅

本日の各駅舎到着時刻は次の通り。

室蘭(7:44)～母恋(ぼこい、8:22)～御崎(8:55)～輪西(9:30)～東室蘭(10:18)～鷺別(10:59)～幌別(14:12)～富浦(15:51)～登別(16:33)

①格調高い室蘭駅を色んなアングルで撮影後、母恋駅を目指す。7時55分、パチンコ屋の駐車場先で袋小路となり、引き返す。3分位ロスタイムが生じる。7時58分、幹線道路に合流する。8時3分、NHK前バス停（道南バス）前を通過。8時5分、入江高架橋があった。母恋駅には8時22分に到着する。駅前には地球岬へのPRがあった。



※母恋駅への路、入江高架橋は白鳥大橋への路



※母恋駅



※母恋駅（時間があれば地球岬を観光したかった）

②8時30分、ラッパ森バス停前を通過。濃霧が出で山間などは観察できず。8時45分、霧晴れる。8時49分、高速道路下を潜る。御崎駅には8時55分に到着する。



※御崎駅への路



※御崎駅

③9時7分、鉄原前バス停前を通過。9時8分、テツゲン室蘭支店前を通過。9時12分、2両編成の室蘭行きの列車と対面する。9時15分、トヨタ前バス停前を通過。9時20分、苫小牧行きの列車と対面する。9時21分、室蘭ガスタンク前を通過。9時23分、高速道路下を潜る。輪西駅には9時30分に到着する。9時35分より、300m位続く粹な輪西花壇に沿って歩く。印象に残る”輪西みどりの会”のメッセージであったのでメモする。「夢は大きく望むもの／花は心で愁うもの／思い出はいつも心に残るもの」



※輪西駅への路



※輪西駅

④9時51分、高速道路下を潜る。9時56分、苫小牧行きの列車が通過して行く。9時59分、東室蘭1km、函館188km、苫小牧60kmと記した道路標識前を通過する。10時2分より、300m位続く松並木を歩く。2016年6月の函館界隈の松並木を思い出し懐かしくなる。この時、今も親しくさせて頂いている、故郷香川同郷である街道歩き達人高野氏（共に2017年日本縦断達成）と知り合ったことを。10時11分、道路下を潜る。10時12分、室蘭市消防総合庁舎前を通過。東室蘭駅（東口）には10時18分到着する。



※輪西花壇



※東室蘭駅への路

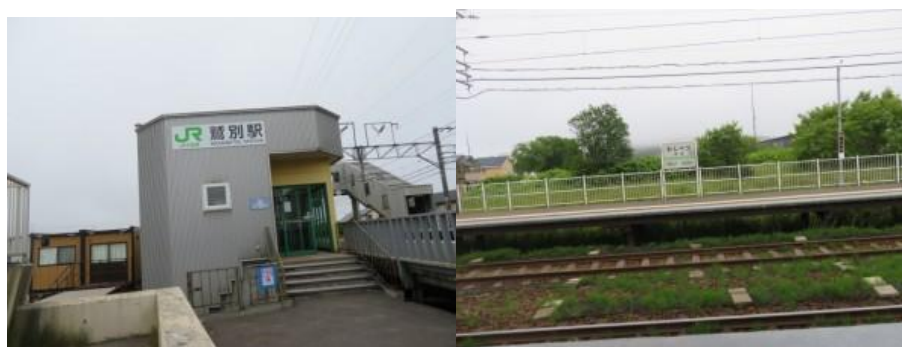


※東室蘭駅（東口）

⑤10時22分、東室蘭郵便局前を通過。10時29分、道路下を潜る。10時48分、一般社団法人全国軽自動車協会連合会室蘭事務所前を通過。10時53分、室蘭ガス（株）前を通過。鉄道下を道路が走っていた。室蘭工業大学へ標識があった。鷺別駅には10時59分に到着する。



※鷺別駅への路



※鷺別駅



※鷺別駅

⑥道道 107 号線を暫く歩き、11 時 18 分、国道 36 号線に合流する。11 時 22 分、鷺別橋（鷺別川）を渡る。11 時 23 分、札幌 122 km、苫小牧 57 km、白老 34 km と記した標識前を通過。11 時 24 分、鷺別団地前を通過。11 時 30 分、札幌まで 124 km の標識前を通過。先程の標識と 2 km の乖離があり驚く。11 時 31 分、松並木が登場する。11 時 32 分、鷺別中学校前を通過。その先に登別市立鷺別小学校があった。「よい子／つよい子／かしこい子」と記した標識があった。11 時 44 分、太平洋の海岸に出る。ここで山岡家ラーメンがあったのでランチ休憩（25 分）とする。



※ランチタイムまでの路



※美味しいラーメンであった

12時36分、西富岸バス停前を通過。12時51分、富岸橋を渡る。久し振りに本格的にランチをとったため眠たくなる。暫く歩いた先で道路を横切る。苫小牧方面の列車が通過して行く。12時52分、登別市大和町と記した標識前を通過。左手には線路があった。13時16分、室蘭行きの列車が通過して行く。それにしても、室蘭から苫小牧の区間は、岩見沢から苫小牧の区間に比べ、ダイヤが多いと認識する。13時26分、新幌別橋（新幌別川）を渡る。左手に500m位先にコカ・コーラの会社があった。13時34分、自転車が私を追い越して行く。室蘭方面に向かう列車と対面する。13時35分、徒歩の方とすれ違う。13時37分、道南硝子室蘭店前を通過。13時40分、初関橋（徳消川）を渡る。13時46分、札幌まで118km地点を通過。13時50分より、180歩ある幌別橋（胆振幌別川：いぶり）を渡る。14時1分、道路下潜る。駅通路を経由し、鉄道の左側となる。幌別駅には14時12分に到着する。この駅には駅員がいた。



※幌別駅への路（睡魔に襲われる）



※幌別駅



※幌別駅

⑦登別郵便局前、真宗本派本晃寺前を通過。この寺の前にも印象に残るメッセージがあったのでメモする。「失ったものを数える人あり／与えられたものに感謝する人あり」14時26分、幌別学校道路踏切を横切り、鉄道の右側となる。14時27分、愛隣学校跡先で国道36号線に合流する。セブンイレブンがあった。14時39分、東小学校前を通過。14時48分、53歩ある岡志別橋（岡志別川）を渡る。14時55分、登別市幸町とある標識前を通過。15時2分、札幌112km、苫小牧47km、白老24kmと記した標識前を通過。15時5分、幸町4丁目バス停前を通過。15時25分、富浦と表示のある標識前を通過。15時43分、西富浦バス停前を通過。15時39分、国道36号線から分岐する道道701号線に方向転換する。寂しい道筋を暫く歩いた先に富浦駅（15時51分）があった。非常に粗末な駅舎であった。室蘭方面の列車がやって来る。



※富浦駅への路



※富浦駅

⑧16時2分、富浦バス停前を通過。その先に121mある蘭法華トンネルがあった。このトンネルを16時5分通過する。16時10分、JR線を跨ぎ鉄道の左側となる。16時16分、国道36号線に合流する。16時22分、登泉橋を渡る。登別駅には16時33分に到着する。万歩計は51,471歩となっていた。



※登別駅への路



※登別駅への路



※登別駅



※登別駅

⑨私がこの駅に到着するや否や中国人を中心とする外国人で待合室は一杯となる。自動販売機で特急（17時5分発）の買い方が分からず、17時26分発の各駅停車で苫小牧駅に戻る。ホテルには18時26分に到着する。今日は休肝日とし、ホテルロビーでホッキカレーで夕食とする。非常に神経を費やす一日で、バタンキューとなる。



※ホテルへの途

第2節 6日目：6月16日（月）：登別～社台 晴れ

2025年6月16日（月）晴れ、室蘭本線の旅の6日目は、登別から社台までの営業キロ24.4kmに挑戦する。本日は苫小牧7時49分発のダイヤであったので、ホテルで朝食をとり臨むことができる。一方、本日の列車は、昨日の始発電車と異なり、通学の時間に設定されているのか、苫小牧で満席の状態となった。日高線（鵠川～苫小牧）からの乗り換え高校生も含め。しかし、高校生が青葉駅、錦岡駅、白老駅で下車し、白老駅以降は余裕がある車内となった。



※苫小牧駅へ



※日高線と室蘭本線の車両



※登別駅

本日の各駅舎立ち寄り時刻は次の通り。

登別(8:44)～虎杖浜(9:50)～竹浦(11:32)～北吉原(12:28)～萩野(13:09)～白老(14:43)～社台(16:00)

①登別駅をデジカメに収めた後、登別温泉通りを歩き、8時50分、国道36号線に合流する。途中登別郵便局（8時46分）あった。坂道を上る。8時54分、観覧車がある登別マリンパークニクスがあった。9時、札幌まで108km地点を通過。濃霧が多少かかり視界が悪くなる。それにしても、今回の旅、濃霧が多いのに驚く。濃霧を感じたのは、2021年10月、小海線の清里駅界限で体験して以来、2度目である。当時は視界が10m位であったような気がする。それに比べれば浅い霧であった。9時14分、渋谷水産看板前を通過する。それにしても本州にある地名と同じ地名が登場し驚く。渋谷、舞鶴、箱根などに加え、北吉原駅、北広島駅、伊達紋別駅も広義の意味でその範疇。9時18分、札幌105km、千歳68km、苫小牧40kmと記した標識前を通過。59歩ある”あよろ橋”（アヨロ川）を渡る。いつの間にかJR線を跨ぎ。線路が左手側に見える。9時38分、日帰り温泉虎杖浜温泉ホテル前を通過。虎杖浜駅には9時50分到着。苫小牧方面に向けて特急が通過して行く。



※登別温泉通り



※登別マリンパークニクス



※虎杖浜駅への路



※虎杖浜駅



※虎杖浜駅

②10時2分、廃家となった虎杖荘（研修所）前を通過。国道36号線に合流。10時9分、白老町消防西部出張署前を通過。その先に虎杖浜公民館があった、所々の民家で急カーブの屋根と煙突を見かける。10時20分、セイコーマート前を通過。10時25分、白老町竹浦という地名を通過。9時27分、北海道リハビリテーション（天寿会）前を通過。右手に太平洋広がる。10時36分、23歩ある新竹浦橋（クツタリウス川）を渡る。10時36分、虎杖浜温泉バス停前を通過。この温泉は日本の名湯、美人の湯とあった。10時44分、札幌まで103km地点を通過、10時54分、竹浦温泉の看板があった。11時7分、故障したバスを運ぶトラックが追い越して行く。11時10分、浜竹浦バス停前を通過。11時20分、太陽光発電前を通過。その先で54歩あるあつぷ橋（メップ川）を渡ると、竹浦小学校看板を目にする。竹浦駅には11時30分に到着する。



※竹浦駅への路



※竹浦駅への路



※竹浦駅

③11時55分より、237歩ある竹浦橋を渡る。前方に屋島のような盛土が登場する。12時13分、北吉原看板を目にする。12時16分、北吉原バス停前を通過。このバス停には”大人の休日倶楽部”のPRがあった。初めてバス停にPRがのるのに気付く。北吉原駅には12時28分到着する。千歳行きの列車がやって来る。



※北吉原駅への路



※北吉原駅



※北吉原駅

④12時50分、85歩あるフシコベツ川を渡ると、札幌から96kmに到達。この界限には苫小牧警察署萩野交番があった。この交番には、先程竹浦駅前で巡回していたパトカーが停まっていた。12時57分、萩野郵便局前を通過。その先に萩野駅（13時9分）があった。



※萩野駅への路



※萩野駅

⑤13時26分、東萩野バス停前を通過。13時30分、はぎの自動車学校があった。13時34分、白老町石山という標識前を通過。13時41分より、126歩あるオヨロ橋（ウヨロ川）を通過する。13時45分より、500m位続く松並木沿いを歩く。13時50分。カローラ苦小牧しらおい店前を通過。13時52分、札幌から93km地点を通過。14時、風雨別橋（ふべつ：風雨別川）を渡る。14時2分、交通安全延命地藏尊前で本日の安全を祈願する。15時5分、少しでも鉄道に沿った道筋に近づくため、方向転換し、国道36号線に沿った幹線道路を歩く。しかし、ここから白老駅への路は遠い。14時17分より、261歩ある白老橋（白老川）を渡る。14時27分、苦小牧12kmと記した標識前を通過。14時35分、白老八幡神社前が線路を挟んで向こう側にあった。白老の街並みを歩き、白老駅には14時43分に到着する。当初の予定はこの駅でアップするところであった。しかし、次の各駅停車の白老発が16時22分で、待ち時間が1時間39分もあり、何とか次の社台まで歩けないかと検討する。念のため、駅員さんに白老駅から社台駅までの営業キロを問い合わせる。「5.5kmです」と教えて頂く。それであれば、何とか1時間半でクリアできると判断し、5.5km先の社台駅に上方修正することを決断する。



※白老川への路



※白老川



※白老駅への路



※白老駅

⑥2012年6月、青い森鉄道の踏破に際しても、友人との再会のため、営業キロ6kmを1時間位で駆け抜けたことを思い出し懐かしくなる。5.5kmを90分でクリアすることは、頑張れば出来ると思い、14時50分、白老駅をスタートする。15時8分、北海道白老東高校前を通過。15時16分、国道36号線に合流する。15時20分、札幌85km、千歳48km、苫小牧20kmと記した標識前を通過。15時32分より、126歩ある社台橋を渡る。15時45分、社台中央バス停前を通過。16時、社台駅に到着する。万歩計は45,756歩であった。次の苫小牧行きは16時30分であった。待ち時間を利用して、駅備え付けのメモ帳に今回の旅の概要をメモする。草ぼうぼうになったホームに驚く。聞くとところによると、この界限馬の牧場が多いとのことであった。それ故、途中、運よく一頭の馬を見ることができた。



※牧場への路



※牧場



※社台駅への路



※社台駅でメモ帳にメモ



※社台駅

⑦16時30分の各駅停車で苫小牧まで向かう。苫小牧駅には16時48分到着。汗を流した後、ホテルロビーでカレーを頂いた後、部屋に戻り、先日池田屋で購入した日本酒などで祝杯をあげる。充実した一日であった。



※ホテルで祝杯

第3節 7日目：6月17日（火）：社台～苫小牧 曇り／晴れ

2025年6月17日（火）曇り／晴れ、室蘭本線の旅の7日目は、社台から苫小牧までの営業キロ16.1kmに挑戦する。昨日と同様、ホテルで朝食をとり、苫小牧7時49分発の列車で臨む。しかし、車内は満席の状態であったが、運よく一駅先の青葉駅で座れる。



※ホテルから苫小牧駅へ



※苫小牧駅から社台駅へ



※社台駅

本日の各駅舎到着時刻は次の通り。本日のコースは、昨日、白老～社台まで前倒ししたので、営業キロが 21.6km から 16.1 km と減り、楽なコースとなった。加えて、終着駅が苫小牧駅であったので、時間の制約がなく気分的に楽であった。

社台(8:14)～錦岡(10:06)～糸井(12:06)～青葉(13:07)～苫小牧(14:34)

①8 時 15 分、国道 36 号線に合流する。8 時 17 分、社台バス停前を通過。8 時 22 分、87 歩ある別々橋（別々川）を渡る。8 時 26 分、白老町から苫小牧市となる。8 時 37 分、札幌から 82.5 km 地点に到達する。8 時 50 分、エゾシカと対面する。暫く立ち止まり歓迎してくれる。8 時 53 分、札幌から 81.5 km 先で曇りから晴れマークとなる。9 時、太平洋の海岸線に出る。9 時 6 分、57 歩ある樽前橋（樽前川）を渡る。9 時 10 分、太陽光発電前を通過。9 時 22 分、札幌から 801m 地点を通過する。9 時 25 分、44 歩ある覚生（おぼつ）橋を渡る。その先で錦岡の標識を目にする。9 時 28 分、再度濃霧が発生する。視界は 300m～500m 位か？9 時 35 分、太陽光発電前を通過。「それにしてもこの設備は多いなあ」と感じる。9 時 58 分、長谷通り踏切を横切り、鉄道の左側となる。10 時、錦岡樽前山神社でお祭りのための出店の準備をしていた。「本日、昼からお祭りがある」とのことであった。10 時 6 分、錦岡駅に到着する。この駅で長崎出身の浦川さんという方と 5 分位世間話をする機会を得る。「今から所用で幌別駅界に向かう」とのことであった。カッシーチラシを手渡し、「今回の旅の経緯など」を PR させて頂く。”旅先で色んな人と会話する”のも旅の楽しみの一つであると自問自答する。お礼を言ってこの場を去る。



※錦岡駅への路



※お祭り会場



※錦岡駅



※錦岡駅

②10時25分、濃霧がいつの間にか解消され晴れマークとなる。松並木が1km位続く道筋を歩く。10時30分、凌雲中学校前バス停前を通過。10時40分より、228歩ある錦多峰（にしたっぷ）歩道橋（錦多峰川）を渡る。右手に上下の特急が通過して行く。10時47分、今歩いている道筋は錦岡南通とあった。11時、道路下を潜り、国道36号線には合流せず、引き続き住宅街を歩く。11時15分、糸井川通り踏切を横切り、国道36号線に合流する。11時16分、33歩ある小糸魚橋（小糸魚川）を渡る。暫く国道を歩くが、JR線を横切る踏切がなく右往左往する。11時42分、JR線を跨ぐ道路にやって来る。11時45分。回り階段を降り、やっと鉄道の左側になれる。降りた先が糸井西通りとあった。鉄道に沿った道筋に方向転換する。11時55分、白樺がある心地よい木陰を経由して、糸井駅を目指す。途中、ホクレンショップがあった。糸井駅には12時6分に到着。



※淡々と民家がある道筋を歩く



※前方に川があり国道 36 号線に合流する



※暫く国道 36 号線を歩き、幹線道路を経由して鉄道の左側となる



※糸井駅への路



※糸井駅



※糸井駅

③糸井駅の陸橋を經由し、鉄道の右側となる、その先でCafe”えちおび屋”があったので、40分位小休止する。店長とウォーキングなど世間話をさせて頂く機会を得る。至福のひと時であった。12時55分、あかつき公園に立ち寄る。13時、いつの間にか快晴となっていた。13時7分、日吉4丁目公園の通りを歩いた先に、苦小牧病院’13時12分）があった。13時15分、ひかりチャイルドケアセンター前を通過し、苦小牧中央高校前を通過。13時25分、光洋2丁目公園を經由して、三条通りを歩く。13時27分、光洋町バス停前を通過。13時30分、115歩ある苦小牧川を渡る。13時33分、大成小学校バス停前を通過。ここから鉄道に近づいた先に、青葉病院に隣接して青葉駅（13時47分）があった。上り下りのホームは地下通路を經由して往来できた。



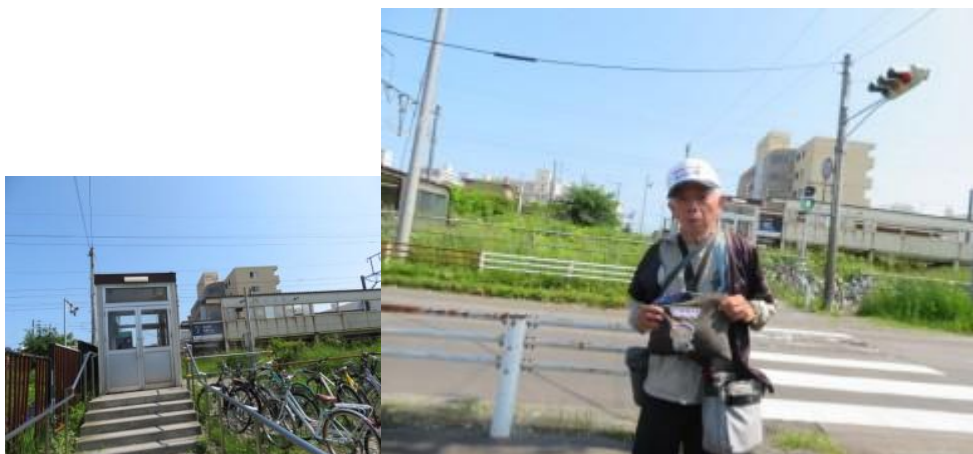
※cafe” えちおび屋” で一休み



※あかつき公園



※青葉駅への路



※青葉駅

④鉄道の左側を歩き、苫小牧駅を目指す。暫く歩くと、14時、王子製紙の煙突とルートインが見えて来る。14時1分、道路下を潜る。14時17分、王子製紙前を通過する。ヤマダデンキ前を14時30分通過する。苫小牧駅北口には14時34分到着。駅前にはベルコシテイホールがあった。苫小牧駅で苫小牧西港からのフェリールート転記する。「苫小牧～八戸、苫小牧～大洗、苫小牧～仙台～八戸」苫小牧駅前の”ぶれんど”で30分位休息した後（本日2回目の喫茶）、ホテルに15時19分戻る。



※苫小牧駅への路



※苫小牧駅



苫小牧駅



※東横イン、ベルコ苫小牧シティホール（みどり生命時代お世話になった会社）



※疲れた時は甘いものが一番

⑤ホテルで一服し、汗を流した後、苫小牧の夜を締めくくため、郷土料理”せきはら”にお邪魔し、これまでの旅の報告と残りの旅計画について話す機会を得る。苫小牧の夜を締めるのに至福のひと時となった。同時に明日からの旅へのエネルギーも頂く。感謝の気持ちで一杯となる。



※” フグひれ酒” で締める